



2017.6.27

年長さんの田植え体験



6/14(水)年長組の皆さんが、給食のお米をいただいている農家の方と仁保で田植えを体験させていただきました。これは田んぼをキャンパスに見立て、色の異なる稲を植えることで大きなアンパンマンの顔を作るようにしました。子どもたちは、アンパンマンの顔を四角で取り囲む額縁の部分に植え付けました。たぶん、ほとんどの子が田植え経験はなかったと思います。バスで移動するとき子どもたちに聞いてみました。「今日は何をするん?」「田植えをするぞ」「そうなん、田植えってどんなことをするの?」「あのね、お米の赤ちゃんを植えるぞ」「赤ちゃんって、かなり小っちゃいんかねえ」なんて話しました。なるほど、そんなふうに考えているんだと、思いました。

さて、田んぼに到着すると額縁以外のところは全部植え付けが終わり、後は子どもたちが苗を植え付けるスペースだけになっていました。トシオさんというお世話係の方から説明を聞き、子どもたちは一人9株ずつ植え付けました。とにかく、それぞれが植え付ける所へ数メートル歩くだけですが、それが一番大変でした。ぬかるむ田んぼはとても歩きにくく、手を引いてあげる先生も足を取られそうでした。自分の足ばかり気にすると、既に植えてある稲を踏んでしまいます。子どもたちも懸命に踏ん張りながら苗を植えてく

れました。植え終わって畦道に戻るときは、もう慣れたのか、自力でスイスイ歩ける子が多くいました。口々に楽しかったと話してくれました。これはすごい体験だと思いました。

農家の皆さんが、こんな苦勞をしてお米を作っているということを知ってくれたら嬉しいなと思いました。逃げ惑うオタマジャクシやカエルに気を取られながら、田植えは無事終了しました。

私も直接足の裏に感じる感覚がとても新鮮でした。足のツボを刺激できたのではないかと思います。でも後半、私は目印になる紐に足が引っ掛かり、転け

そうになりました。田植えのハードさもよくわかりました。帰りのバスで、やり切った成就感で満たされた気持ちになりました。子どもたちもホッとしたのか、バスの中で眠っている子も数名いました。とても楽しい体験でした。



パパママパワーアップ！

6/13(火)「たまごのおうち」で第2回パパママパワーアップ！が行われました。これは、今年度新しくスタートした幼児の保護者の皆さんを対象にしたワークショップです。今回は、山下副園長先生が「乳幼児のしつけと毛糸ヨーヨーづくり」についてお話をしてくれました。

乳幼児の子どもたちには、保護者の皆さんがしっかりと絵本を読んであげようと話されました。大人にとっての絵空事も、子どもたちは不思議の世界にとっても憧れるものだ。だから、何度も読んでほしいと言います。しっかりと絵本を読んであげることが、子どもの心を育てるのだと話されました。

また、お子さんの躰についてもお話がありました。躰は基本的に子育てと同じなので「心配はいらないよ」というスタンスが大切であると話されました。要はしっかりと見守ることが、子どもの自立心を育てていくことになるということでした。子どもと親のコミュニケーションができていれば、きびしく教えても問題はないということでした。でも、親として安心して頑張れる環境を作ってあげることに心掛けたほうがよいと話されました。また、子どものプライドを傷つけないように配慮することも大切だと締めくくられました。



最後に、毛糸のボンボンヨーヨーづくりの時間がありました。このお話に出席した私(有馬)のヨーヨーが左の作品です。毛糸のヨーヨーの動きが絶妙で楽しく遊べました。伸び縮みする専用のゴム紐を頂きました



が、輪ゴムなんかでも代用が利くのかなと思いました。目玉をつけると、なんかのキャラクターのようで愛嬌がありました。今後も保護者の皆さんを対象にパワーアップが計画されていますので、ご参加をよろしくお願ひします。

ママ友のつきあいで、もやもや

5月のゴールデンウィーク最後の日、朝日新聞を見た。「悩んで読むか、読んで悩むか」という読書に関する相談の記事が目にとまった。

「持ちつ持たれつ」という言葉があるが、近所やママ友とのつきあいは「持ちつ」が多くて嫌になるというもの。うちばかりに遊びに来たり、路上で遊んでいる子を私が見守っていると他の親は買い物に行ったり。感謝の一言もない。だから、もやもやしている。

どんな解決方法を示してくれるのか？読んでみると次のような感じだった。

残念ながら、その不平感や、完全に払拭することは難しいです。なぜなら相談者さんはやさしい方だと思うので。でも、日々不公平感を抱えているのはストレスですね。せめて読書でそのストレスを晴らせないかと考えたら、ぴったりの本が加納朋子「七人の敵がいる」集英社文庫です。そして続編の「我ら荒野の七重奏」も合わせてどうぞ。



何か調子よくまとめられた感じではあるが、本を注文してみた。先に届いたのは「我ら荒野の七重奏」だった。これから読み始めた。でも、これが面白かった。中学生吹奏楽部親の会の奮闘記だ。私も「そうだよな」と納得する部分が数々あった。これから「七人の敵がいる」も読んでいくつもりだ。これは、小学校のPTA役員決めで主人公山田陽子が、PTAを敵に回して、その敵とどう立ち向かうかという展開だ。私はこの正義感たっぷりのお母さんが好きだ。これからお子さんが小学校へ入学されたとき、心構えとして知っておくのもいいかもしれない。

特技紹介

野田学園幼稚園には、特技のある先生がたくさんいます。今回はその第一弾として、光貞美里先生を紹介します。光貞先生は、なかよし時間（保育部や預かり保育）を担当しています。

保護者の皆さんもいろいろな場で、野田学園幼稚園のイラストをご覧になっていると思いますが、そのすべてを光貞先生に作成してもらっているのです。今回、光貞先生の特技についていろいろ質問をしてみました。



1) イラストが描けるようになった理由を教えてください。

気がついたらいつの間にか、イラストが好きになっていました。たぶん小学校の低学年のころ、絵を先生からすごくほめられたことがありました。それで好きになったような気がします。妙に自信がついてしまったという感じです。高校生のときか、真剣にカット集を作る人になりたいと思ったくらいでした。

2) これまでにどんなものを描いてきましたか？

イラストだけではなく、鉛筆だけで動物を描くことに取り組んだことがあります。ネコや鳥などの質感を描くのはなかなか大変でした。他には萩焼の絵付けに挑戦したこともあります。焼成するとイメージどおりではなく、がっかりすることもありましたが、楽しかったです。

3) イラストを描くときは、どんなところに気を付けていますか？

人からイラストを頼まれるときは、どんなものが欲しいのかを詳しく聴くようにしています。相手のニーズをよく確認することが大切だと考えています。

4) イラストを描いて、うれしかったことはありますか？

最近のことですが、アンパンマン公園の土管にイラストを描きました。そのときちょっとした遊びで、管の内側や反対側にも小さな絵を描きました。すると子どもたちが「おぼけがいたよ」と気付いてくれたことが「やったあ」と叫びたいくらい嬉しかったです。

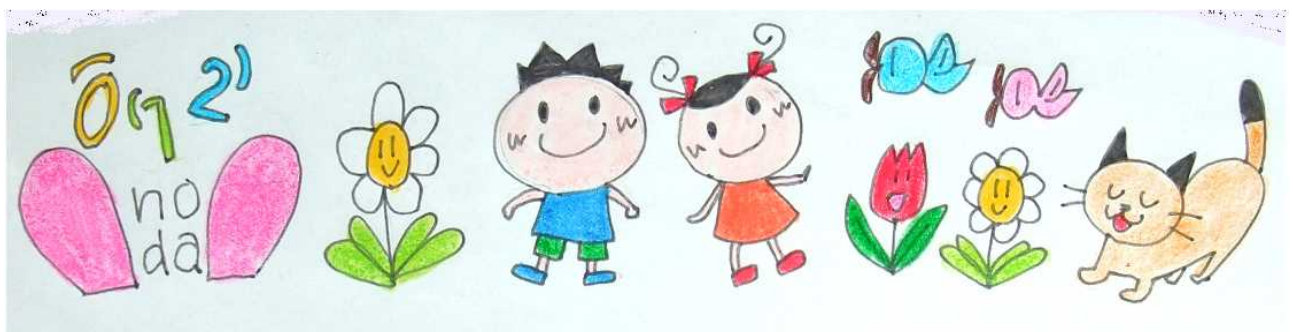
5) 今後、こんなイラストを描いてみたいという願いはありますか？

できるかどうか自信はないのですが、絵本を作りたいです。ハッピーエンドじゃなく「せなけいこさん」のように読後感をじんわりと考えさせるような絵本です。できたらいいなと思っています。

光貞先生、これからも楽しいイラストをよろしくお願いしますね。ありがとうございました。



せなけいこさんの代表作「ねないこだれだ」など。



竣工記念で作ったコップ図案の一つです。実際のコップのデザインとどこが違うかわかりますか。